

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年四月度 入選句（投稿総数千九百五十六句・小中学投句数千百六十句）

特選

選者 白井 静子

れんげのわのせたいもうとひめになる 大垣市 奥田 勘太郎(小四)

春になるといろいろな草花が咲き出します。そんな草花で遊んだ経験は多くの人がもっていることでしょう。たんぼぼの水車、しろつめ草の首かざり、れんげのめがね… 作者の妹は、れんげの冠を頭に載せてもらいました。いつもは元気いっぱい妹が、とたんに、おしとやかなお姫様のようにになりました。妹の変身ぶりに驚いた作者。妹の新しい一面を発見して、少しまぶしく感じたのかも知れません。十七音の中に、妹を思う作者のやさしさが感じられます。

宿題の終わったまどから春満月 大垣市 那須 春仁(小五)

春の満月は、あたたかく、大きく、作者を照らしています。五年生になると、宿題も多くなります。自分でしっかり考えて取り組むものも増えてきます。そんな宿題に、作者は、一生懸命に取り組んでいたのでしょうか。いつの間にか満月が上り、作者の部屋の窓を照らしています。やり終えた満足感が、「春満月」という言葉に、よく表れています。

手をにぎり一年生としゅっぱつだ 大垣市 飯田 真依(小六)

朝の登校班では、六年生が一年生と手をつなぐのでしょうか。でも、作者は、「つなぎ」ではなく、「にぎり」という言葉を選びました。「ここに、作者の、「一緒にいこう。」「わたしも六年生として出発しよう。」という決意が込められています。「出発だ。」と言い切ったことで、その気持ちがいっそう強く感じられます。言葉をよく考えて選んだ、よい句です。

秀逸

なかよしのこいのぼりみててをつなぐ 大垣市 山村 咲絢(小二)

みそしるにわかめがゆらりおどってる 大垣市 菊地 奈央(小二)

花がまうこうさてんのステージで 大垣市 北浦 拓真(小四)

モンキチョウ黄色い花でかくれんぼ 大垣市 浅野 聡美(小四)

たんぼぼの明りがついた通学路 大垣市 西脇 楓華(小五)

わっしょいと声がひびくよ春祭り 大垣市 大橋 一輝(小五)

かたい芽がきょうはふつくらみどりの葉 大垣市 影山 滉一(小五)

ひざしうけごろりとねたいれんげばた 大垣市 松崎 望来(小五)

うぐいすが友達さがし鳴いている 大垣市 安田 絢賀(小六)

八重桜ライトアップで色が増す 大垣市 吉岡 舜将(小六)

入選

チューリップさんしよくさいておどってる 大垣市 伊藤 由姫(小二)  
 じいちゃんとおつかい草もちさくらもち 大垣市 山田 ゆあん(小二)  
 やえざくらふわつとかおるいいくうき 大垣市 松岡 優奈(小二)  
 ふきのとうせがのびてるよはがひらく 大垣市 松村 逢夢(小二)  
 かあさんと田んぼにすわりつくしつみ 大垣市 杉原 勇次(小二)  
 ムスカリのおはながぶどうにそっくりだ 大垣市 牛田 温斗(小二)  
 つくしたちかぞくみたいによりそうよ 大垣市 関谷 晃介(小三)  
 春まつりみんなあつまるもりあがる 大垣市 岩井 心花(小三)  
 つくしとりなかなかないぞかくれんぼ 大垣市 小林 昴汰(小三)

入選

行ってきます春風かんじる新学き 大垣市 御田村 いつき(小三)  
 しやりしやりとすなをかきわけあさりとる 大垣市 松原 壱喜(小三)  
 朝水で顔があらえる春だなあ 大垣市 廣瀬 香音(小四)  
 春風がみんなのほっぺくすぐるよ 大垣市 川瀬 唯華(小四)  
 さえずりが聞こえてさがすよ鳥の場所 大垣市 箕浦 颯希(小五)  
 クラスがえ友達見つけホツとする 大垣市 長瀬 冬雪(小五)  
 山笑うぼくたちみんなも笑ちゃう 大垣市 川瀬 大志(小五)  
 まどあけてほっぺにやさしい春の風 大垣市 伊藤 光小六  
 入学式手と手をつなげばお友達 大垣市 古田 真琴(小六)  
 お祝いにはかまで並ぶつくしたち 大垣市 金谷 桃奈(小六)

選者吟

菜の花に見えつ隠れつ紋黄蝶

白井 静子